

来たる七月六日の東松山市長選挙の行方はいかに！

「森田光一氏(現)の対抗馬と噂される松坂よしひろ市議の

品性なき暴走は、東松山市を守り、発展に寄与する市議の資格なし」

松坂市議とその陣営の有力者 榎本恵一氏との連携による、森田市長に対する常軌を逸した「怪文書」の配布に、松坂市議の政治家の道を踏み外した姿勢が見てとれる。政治家とは、民衆のために己を無にして勤め・励むことを誇りとしてこそ、民衆からの尊敬を集めるのである。本紙記者を前に、聞くに耐えない言葉で松坂市議の対抗馬とする森田市長を罵り、果ては「怪文書」などを撒き散らすなど、既に他所でも耳にする榎本氏の振る舞いを支持する松坂市議は、政治家として論外の人物である。

榎本恵一氏は、ひたすら森田市長を非難・罵倒し、政治的論旨一片すらない「怪文書」を配布していることを手柄顔で自慢する。森田市長に向けて「：他所から来て財産もないのに婆アの土地と財産をちよつともらつて成り上がりになった。」だの「足が無い爺さん婆さんたちには、投票所まで送っていく：」だのと、森田市長を潰す発言に終止している。

榎本氏の発言が、松坂陣営に参加する全ての人々に通じる発言とは思えぬが、まともな市民の心を逆撫でするのだ。森田市長は幼児期、他所から東松山市に移り住み：この地に馴染み、この地で教育を受け：この地で政治家を志し、市議を二期・県議を二期務め、いま市長として全身を傾け市政に取り組んでいる。この地の繁栄のため、他の自治体との企業誘致競争に先駆け、優良企業を獲得した評価すべき功績を上げ、東松山市の発展に身を粉にして働く男を「よそ者」呼ばわりの政治感覚は、松坂市議の評価を下げ続けるのだ。

松坂市議は斯様な榎本氏の存在を容認し、かつ「怪文書」の配布を歓迎する位置に己を置いていることに満足している政治感覚の持ち主だ。これを良しとする連中が足となり、投票所へ運ばれ、松坂支援の投票要員だけに利用されるお年寄りに対して、爺さん婆さんなどと上からの目線で、軽くあしらう姿勢に無性に腹が立つ。

優良企業のトップとの面談に日参し、企業誘致のため東松山市の有利性を説く森田市長より、誘致を請われる立場の側が、何故に森田市長へ賄賂を提供する必要があるのか。森田市長の必死の努力を逆しまに「錬金術」と切つて捨て「怪文書」の配布を制止する政治意識のかけらも持たない松坂市議に東松山市を担う資格などない。

「世の中は政治によって動かされる

地方自治体の活性も停滞も全て政治の責任だ！」

それ故に政治家に疑義が生じれば本紙は厳しくこれを糺す。政治家はある面、全身を世間に晒して生きている。一から十まで完成された政治家などいない。ある時は批判され、ある時は称賛を受ける。政治家はこうして育つ。本紙は政治に対し是非々々だ。

松坂市議は、政治家とは斯くあるべきをいま一度学び、出直し給え！……■